

地域におけるデジタル技術の利活用を支えるデジタル基盤の利用環境の在り方
ワーキンググループ(第1回) 議事概要

1. 日時

令和6年2月20日(火) 17時~19時

2. 場所

オンライン

3. 出席者(敬称略)

構成員: 中尾 彰宏(主査)、大山 りか、小林 寛史、成末 義哲、太田 香(欠席)、黄瀬 信之(欠席)

オブザーバー: テレコムサービス協会事務局、一般社団法人 電気通信事業者協会(TCA)、一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA)、一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟、東日本電信電話株式会社(NTT 東日本)、西日本電信電話株式会社(NTT 西日本)、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、楽天モバイル株式会社

4. 議事概要

1. 開会

中尾主査よりご挨拶

2. 議題

(1)WG における検討事項について

事務局(総務省情報流通行政局地域通信振興課)から資料1-1を説明

(2)地域における通信環境の実態調査 結果報告(1)

三菱総合研究所(MRI)から資料1-2を説明

(3)(1)、(2)に対する質疑

・ADSL 撤去は居住地域でも採算が取れないなど課題がある。また、GIGA スクールについて、速度が出ないことはNW 構成に詳しい人材不足の要因もある。通信における認証について予算の兼ね合いで海外を経由する必要があり認証時間が長いといったケースがある。(JAIPA)

→ADSL 撤去のご指摘の点は施設区分に限らない課題であり、本報告はごく一部の事例だが、実際にはこうした課題が多く顕在化していると認識している。(MRI)

(4)地域におけるデジタル基盤利用環境整備に関する検討の方向性
成末構成員から、資料 1-3 を説明

(5)(4)に対する質疑

・成功モデルのケース化を進めるためにはどういったことが必要か。(中尾主査)

→失敗してもいいと考えている。失敗事例も含めてモデルケース化して、小さいところから始めてもよいと思う。(成末構成員)

(6)意見交換

・非居住地域における交通・観光について運転手不足は過疎地において顕著。群馬県中之条町において観光地ではあるが LTE 不感地域であり、自動運転実証で課題があった。インバウンドに関して、条件不利地域は特に決済面で課題がある。地方自治体自らがインフラ構築することは厳しいので公益的な支援が必要。準公共分野の中で防災があるが、震災等で医療提供が課題になっており支援の一つとなりうる。(小林構成員)

→共通課題があると思っており今後分析進めていく。(MRI)

→防災は特に重要。衛星通信などのユースケースが事例化していくとよい。(成末構成員)

・MRI の調査報告が衝撃的であった。パートナーとの連携以前に課題があると認識した。(成末構成員)

・デジタル基盤を何に注力して構築していくか。注力分野を決めていくことも必要ではないか。GIGA スクールで配布された端末を更に活用したいが、通信が繋がらないといった課題があり、そういった課題をまずは明らかにしていくことが重要。(大山構成員)

→引き続き調査、分析を進めていく。(MRI)

・とある離島では写真や画像が送れないエリアもある。モデルケース化は当然そのモデルケースを活用する方のことを考えて作るが、個々に課題が発生することがありそれをどう解決していくか。また、民主主義とデジタルディバイドは密接に関係すると考えている。(JAIPA)

→モデルケース化は小さいところから大きくするところの事例もあればよい。(成末構成員)

(7)その他

・次回 WG の日程はメールにて案内する。(事務局)